



進路だより

2022年5月27日号

1・2学年

徳島県立城北高等学校進学課

1 これまでの学習スタイルを振り返ろう！

新しい学年が始まりまもなく約2ヶ月が過ぎようとしています。新しいホームルームでの生活に慣れてきた一方で、部活動も本格的に始まってその疲れから、「予習→授業→復習」の学習リズムをうまく作ることができず、苦労している人もいないのでしょうか。また、「勉強をしないといけない」という思いはあるものの、新年度のスタートと同時に誓ったはずの理想の生活とは次第に離れていることに気づき、気持ちが焦っている人もいないのでしょうか。

生活リズムを整え、家庭での学習スタイルを確立し、模擬試験（6/11全統 2年希望者、7/9進研1・2年）、一斉テスト（6/13 1年）に向けた学習計画を立てましょう。そのためには以下の点を意識して学習に取り組んでみてください。

1. これまでの生活を振り返り、改善点を洗い出す

補習・部活動・授業が本格的に始まり、体も疲れてしまっていて、思うように家庭学習の時間が確保できていない人はいませんか？本来ならば土日にカバーすべきなのに、その時間をついでテレビやスマホに使い、家庭学習を後回しにしているいませんか？そんな現在の自分の生活を見直し、しっかりと学習時間を確保できるよう改善点を見つけてみましょう。

2. 勉強できる環境を確保

自主的に学習を進めるためには何より環境を整えることが大切です。家の中で勉強ができる環境は整っていますか？誘惑が多く集中しにくい場所で宿題をやっていませんか？自分の部屋の机の上は片付いていて、教科書やノートを開ける十分なスペースはありますか？スマホ、パソコン、テレビなどは本当にあなたの部屋に必要ですか？

また、塾の自習室を利用する人も多いと思います。その時、勉強をしながら音楽を聴いて、気がつけば歌の歌詞を一生懸命聞いている自分はいませんか？あなたは本当の意味で「自習」をしていますか？

3. 中間考査までの遅れは必ずこの時期に取り戻す

新年度がスタートしてわずか2ヶ月。この時期に既に提出物が出せていなかったり、小テストで不合格をとってしまったりなど学習面での遅れが出ている人は、この期間を利用して遅れを必ず取り戻してください。この時期のわずかな遅れは数ヶ月たてば、大幅な遅れにつながります。何が何でも復習を集中的に行い、自信をもって模試や一斉テスト、定期考査に臨める状態にしておきましょう。

4. テーマを1つ決めて実行する

各教科から週末課題や長期休暇の課題が出ます。しかし宿題だけでは学力を伸ばすには不十分です。宿題に加えて、何か1つテーマを決めて宿題以外の学習にチャレンジしてみましょう。たとえば、数学の苦手分野を復習する、4月以降に出てきた新出単語を覚え直す、これから授業で進む単元の予習をするなどの課題を自分に課しましょう。それを達成することができたら、自信を持って今後の学習にも取り組めると思います。

5. 休日こそ、三点固定！！（起床、就寝、学習開始時間）

せっかくの時間を無駄にせず、休日を有意義に過ごすためにも、「朝起きる時間」と「夜寝る時間」を決め、平日と比べて大きく乱すことのないよう、規則正しい生活を送りましょう。毎日、「勉強を開始する時間」を固定するのは、たいへん有効な方法です。これは毎日、家で勉強することを習慣化するためです。たくさん休みがあるからといって、勉強しない日が続いたら続かないよう、決まった時間に机に向かいましょう。日によっては思った以上に多忙で、思ったほど勉強できないときもあるでしょう。しかし、できなかった分をそのままにするのではなく、次の日には取り戻せるようにしましょう！

2 大学で学べること・できることを知ろう！（その1）

1. 大学ってどんな場所？

2023年春の志望校にできる日本の大学・大学校の数は、実に790校。テレビやネットを見ていると、科学、政治、経済からスポーツ、文化、芸能まであらゆるニュースで大学や大学の先生の名前を目にします。大学とはいったい、どんな場所なのでしょう。千差万別な大学の設立目的から、特に重要な4つの「顔」を見てみましょう。

表1 2023年4月時点での日本の大学・大学校の数

国立大学	公立大学	私立大学	文科省所轄外の大学校	専門職大学
82	94	586	8	20

※2023年新設予定の大学を含む。通信教育のみの大学は含まず、専門職大学は公立・私立を合わせた数。

① 「教育」の場

大学では、現在進行形で研究中的内容、あるいはまだ世の中に知られていない最新の知識や技術を知り、身につけることができます。また、学校の教科書には収まりきらない、各分野での詳細でマニアックな知識を得ることもできます。知識や技術を手に入れようと主体的に行動することで、どこまでも深い世界に入っていけるのが大学の学問です。

② 「研究」の場

現時点では誰も知らない、世の中のさまざまな謎を解明したり、困難な課題を解決する方法や技術を世界で初めて編み出したりするための「研究」も、大学が社会の中で果たす大きな役割の一つ。民間企業の多くが何らかの「利益」を目的としている一方、誰かの役に立つか立たないかに関わらず「未知なるもの」を解き明かすためだけの研究は、大学でしかできない営みと言えるでしょう。それらの中にも「基礎研究」と呼ばれ、将来の社会的利益の基盤となるものが少なくありません。

③ 職業人「養成」の場

大学では、授業や実習を通じてさまざまな資格を取得することができます。中でも、教育や医療、福祉などの現場で専門的知識や技術を発揮するスペシャリストを養成することもまた、大学の重要な機能の一つです。

④ 「交流」の場

規模や国公立の設置区分などによって程度の差はありますが、大学は「異なる背景を持つ多くの人々と出会うことができる場」です。新しく出会う人々とのさまざまな形でのコミュニケーションは、いずれ社会に出て行くみなさんの人格や教養に大きな影響を与えるでしょう。留学や学会を通じた海外の人々との交流も、学生個人にも日本の社会にも活力を与える大切なものです。

2. 学部・学科って何？

「学部」とは大学において、専門的な教育や研究を行う大きくくりな組織のこと。この学部の下に、さらに細分・専門化した「学科」が設置されるのが一般的です。

現在、全国で500種類以上、のべ2000を超える学部があります。教育内容に即した学部・学科名は、みなさんが学ぶことができる内容を表していますが、一方ではぱっと見ただけではどのようなことが学べるのか伝わりにくい学部・学科名もあります。蛭雪時代などの情報誌や各大学のホームページ、パンフレットを活用し、さまざまな角度から学部・学科の実際の姿をじっくりと吟味しましょう。

（蛭雪時代2022年4月号より一部改）